

鯉 錦 朗 拓

セ
ミ
ナ
ー

紅 白 編

第2回

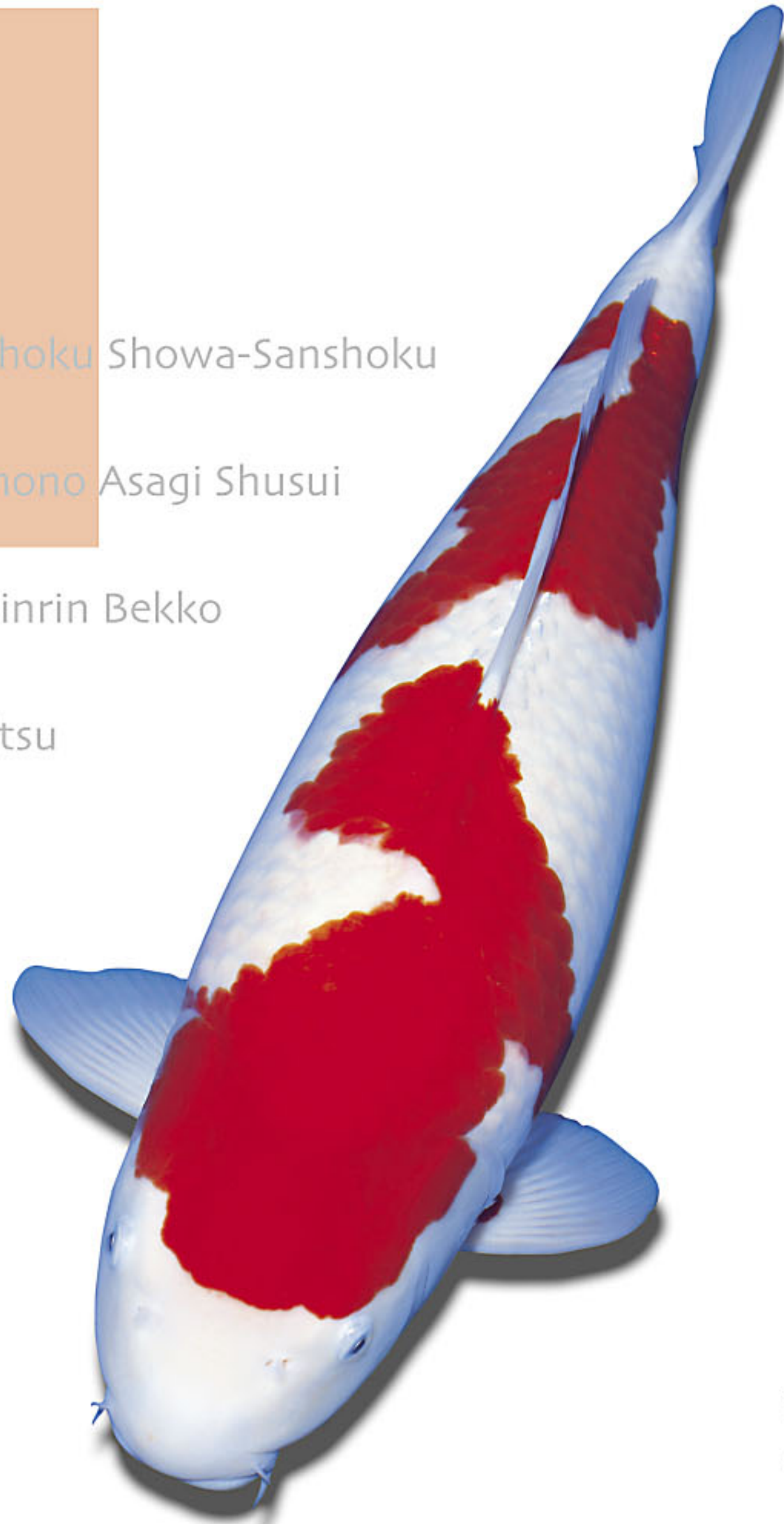
Kohaku Taisho-Sanshoku Showa-Sanshoku

Usturimono Hikarimono Asagi Shusui

Goshiki Kawarikoi Ginrin Bekko

Tancho Koromo Doitsu

Kujaku Kumonryu



人気企画・大菊拓朗（横浜錦鯉）の錦鯉セミナー。今回のテーマは『紅白』です。

第2回目は竹田、瀧川、松江、洋平の各生産者の紅白を見ていきます。それぞれの特徴にも注目です。

竹田紅白の変化を追う

次は広島、竹田養鯉場産の紅白の変化を見ていきましょう。

親は『出雲ライオン』という少し古い鯉なのですが、仙助紅白の元祖とも言われている森田仙助の系統の鯉です。特徴としてはこのお多福顔、そしてゴルフボールのような覆鱗が出てくることですね。では、その子供を見ていきたいと思います。

これが当才です（⑬―A）。これを見ると中羽のような鯉ですから、誰も手にされないのではないでしょう。実際にうちの売り出しで売れませんでした（笑）。模様のにもあまり魅力がある鯉ではないので、手を出せないかもしれませんね。でも、親鯉を信じて仕入れてきました。

うちで立てて、2才ではこういう状態で揚がってきました（⑬―B）。肌は真っ黄色なんです、骨組みがしっかりしてきたので、買って正解だったなと私は思ったんですが、まだこの時点ではお客さんはどなたも認めて下さらなかったもので、また1年お蔵入りにになりました（笑）。

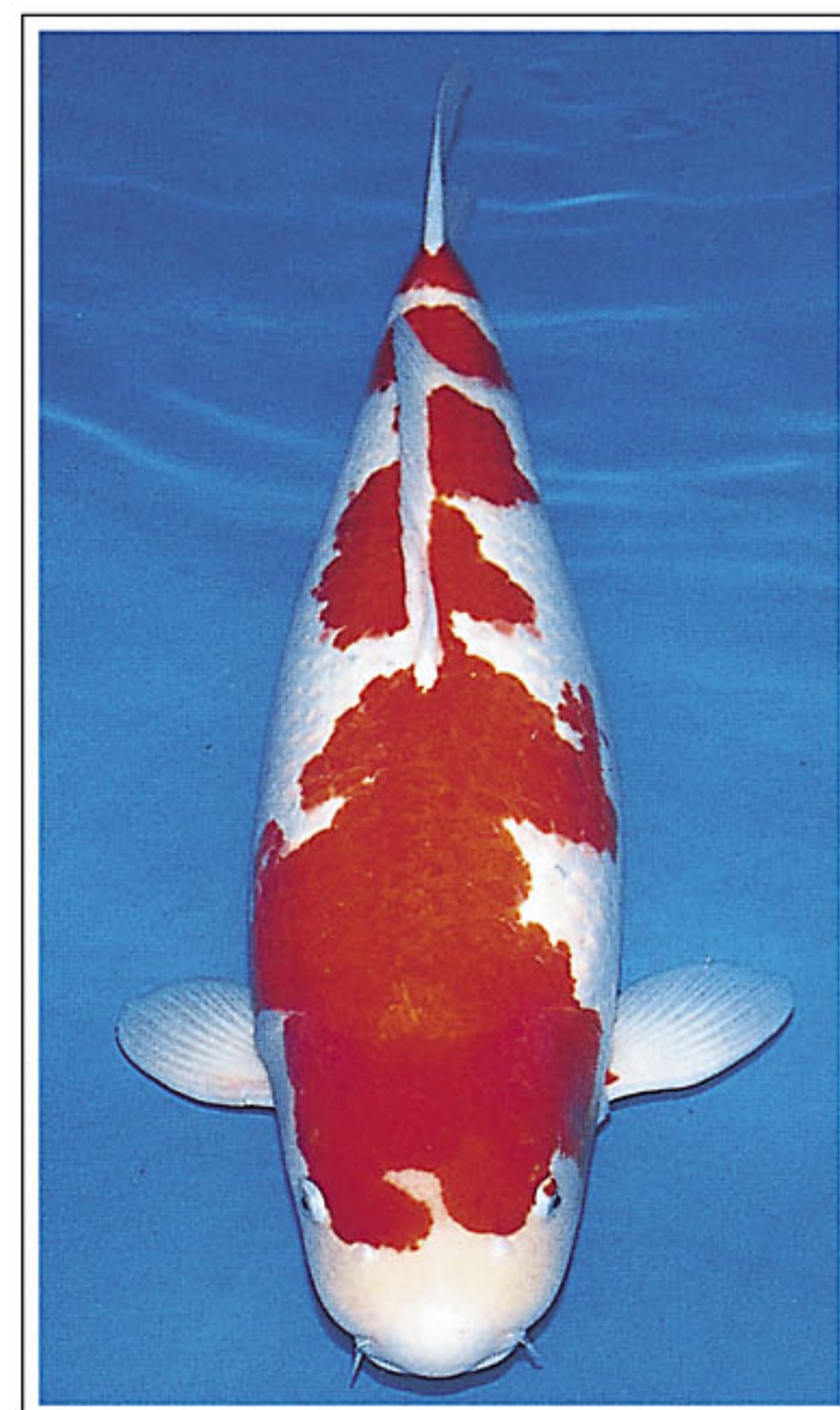
そして3才ではこうなりました（⑬―C）。だんだん形質が出てきましたね。仙助らしくお多福っぽい顔つきになってきて、さらに尾に肉が入り、尾筒の太い鯉になってきました。そして背中肉に鉄筋棒が入ったような、仙助系の特徴も出てきました。

これをもう1年立てるとこうなりました（⑬―D）。4才の姿です。親を超える紅質になり、特徴的なお多福顔、そして骨格もかなり良くなり、サシも綺麗に解決されてきました。こうなった時に売れました（笑）。系統がしっかりしていれば、これだけ楽しめるという一つの例ではないかと思っています。

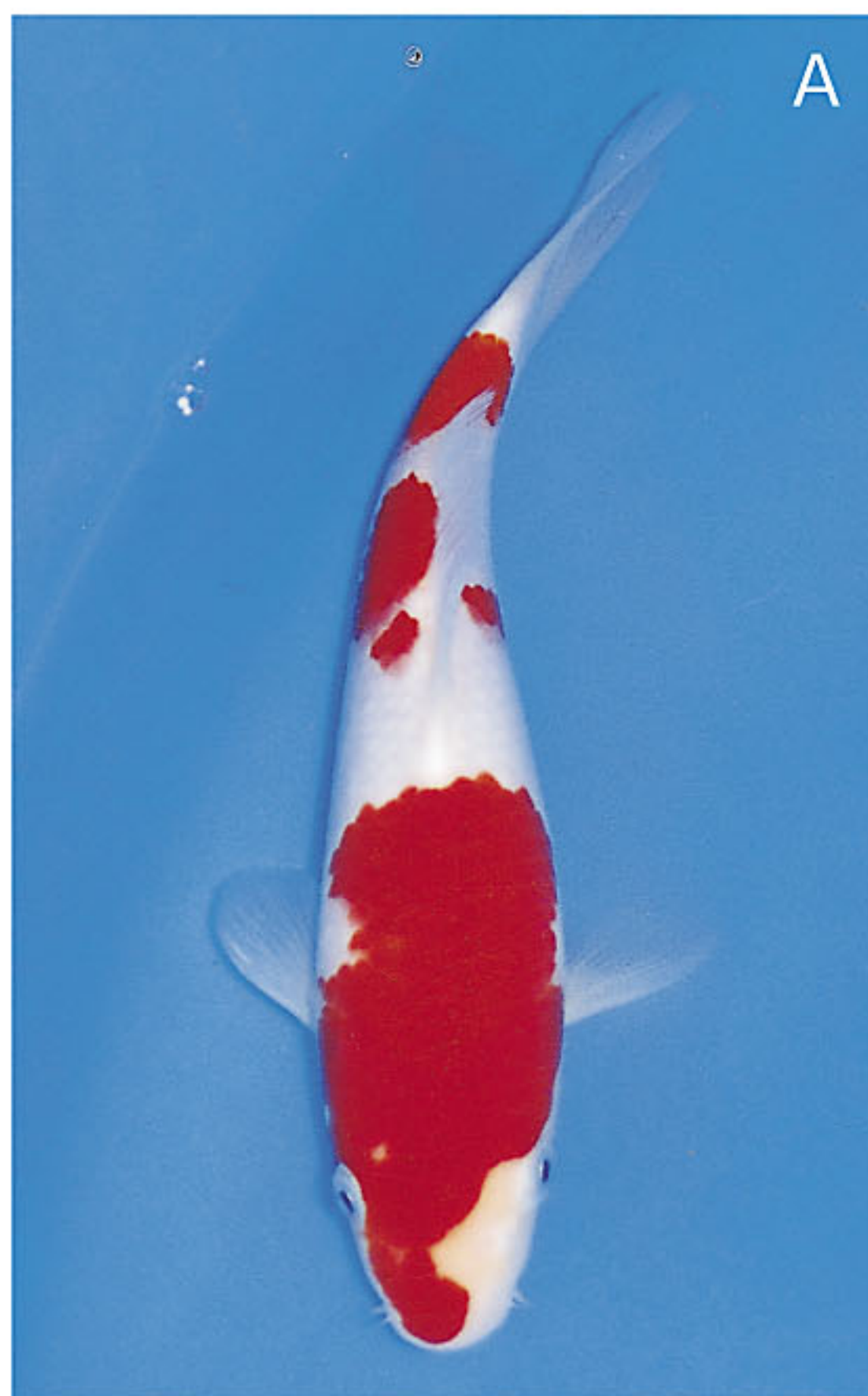
瀧川紅白の変化を追う

次は同じく広島、瀧川養鯉場産の紅白の変化を追ってみたいと思います。

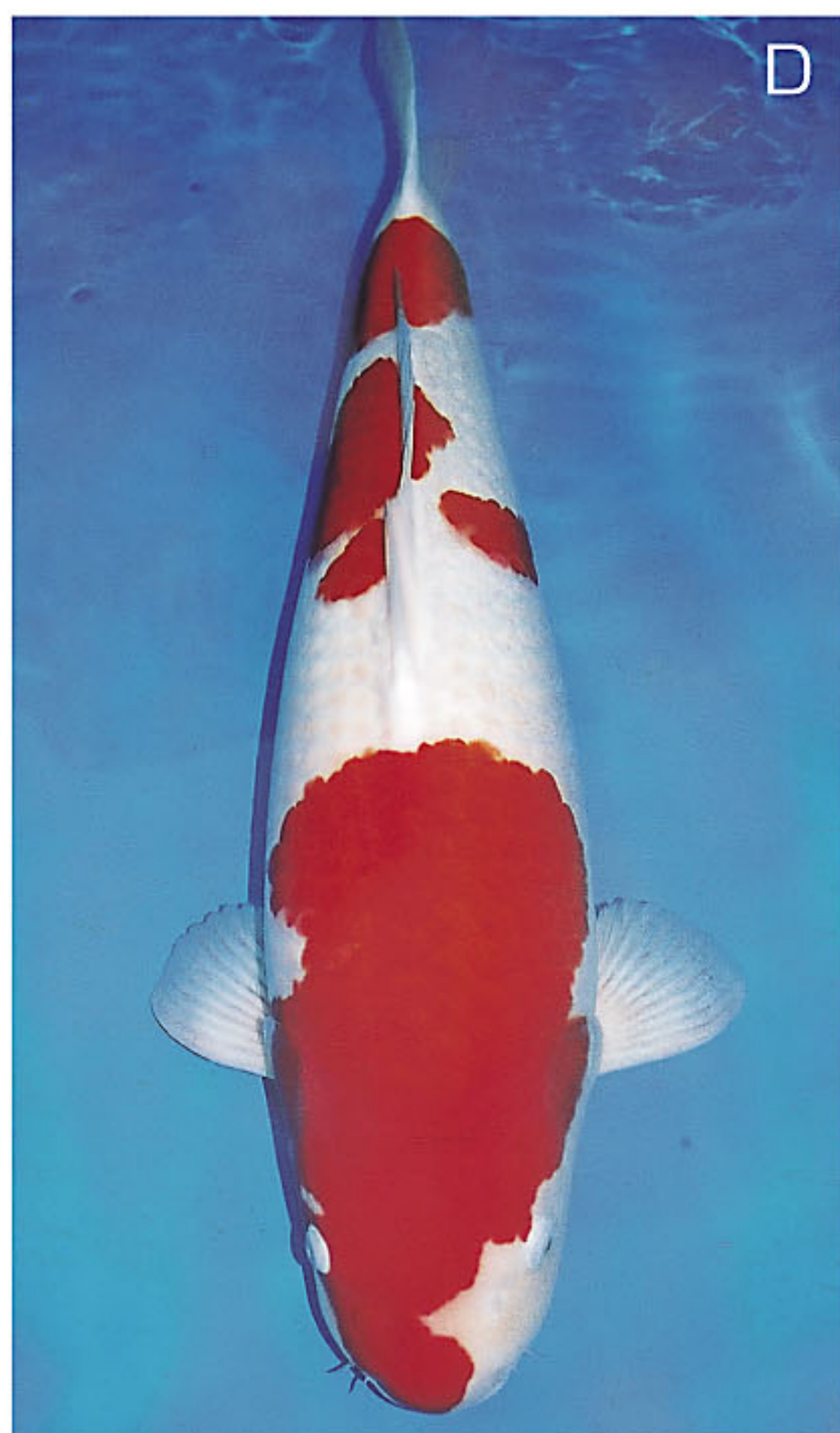
これは竹田系の親を使って作出した2才魚です（⑭―A）。49cmで細身の鯉ですね。この鯉の特徴は、丸染めであるという点です。このへん（⑭―A・ア）の緋がバラけるんじ



出雲ライオン



⑬／竹田紅白

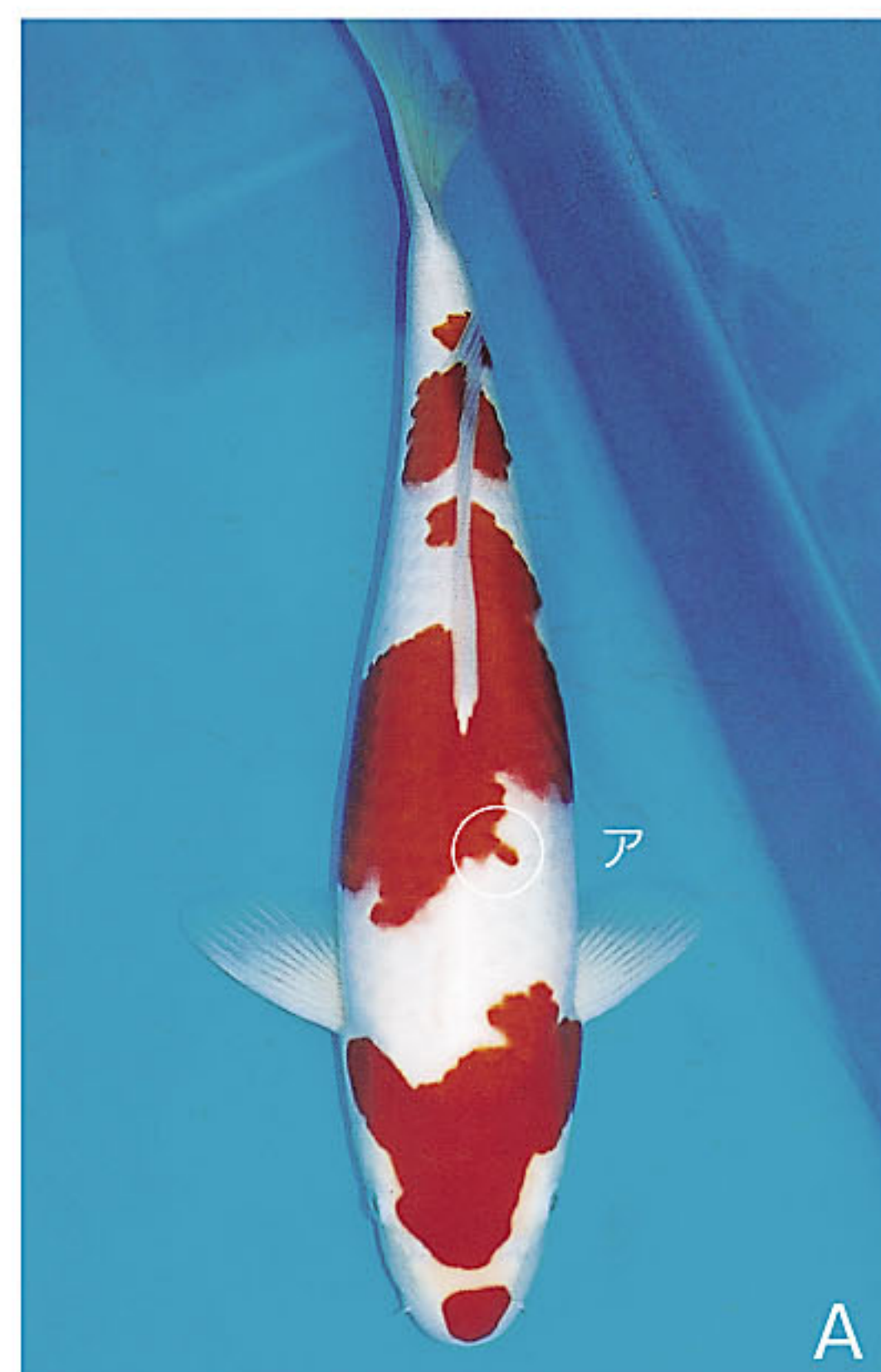


やないかと、ガラを嫌う人もいるかもしれませんが、1年立てて3才になると、十分に緋盤が固まってきましたし、サシもかなり解消されてボリュームも付いてきました(⑭—B)。目幅も出てきて、だいぶ大人っぽい鯉になってきました。

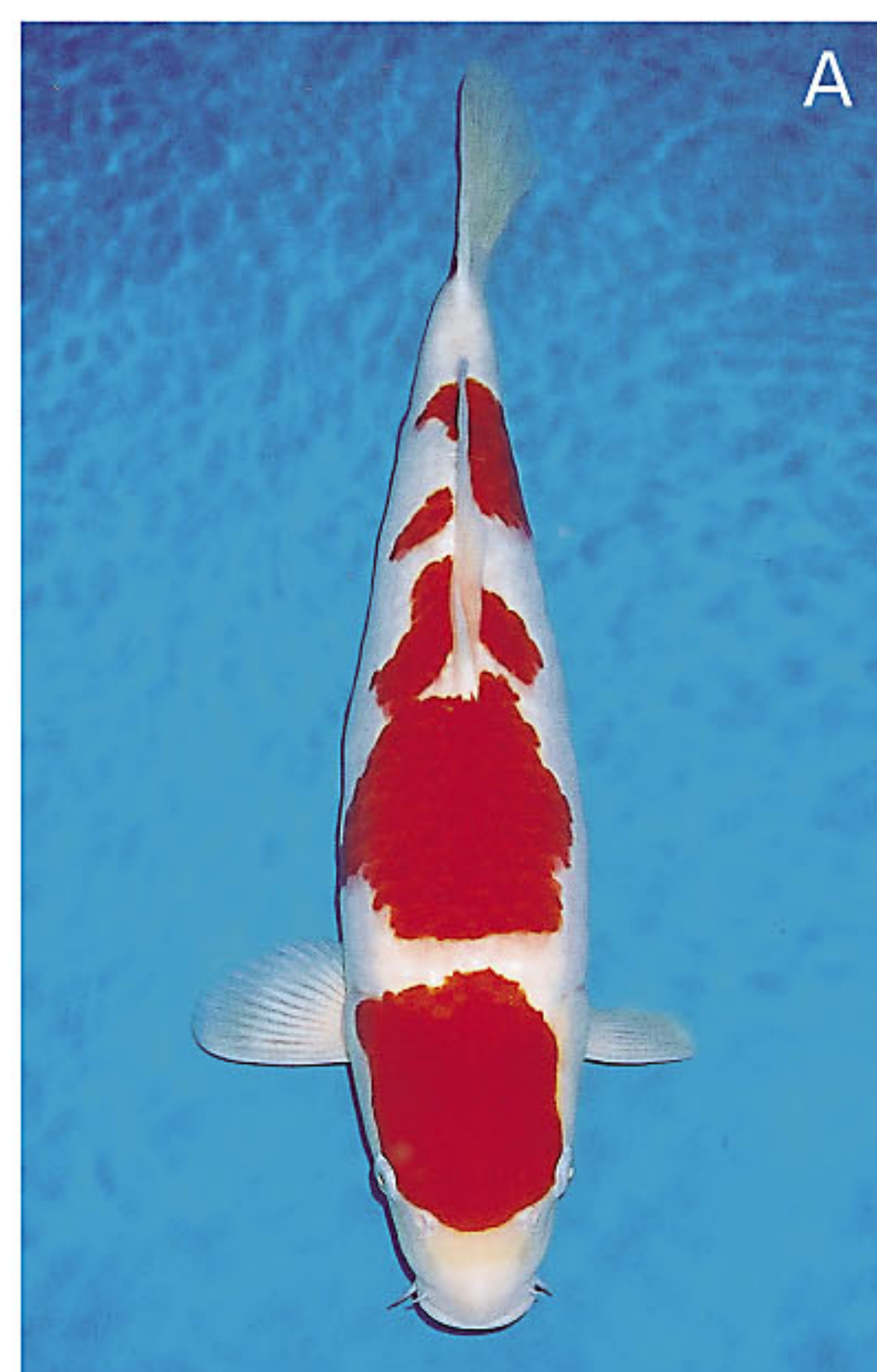
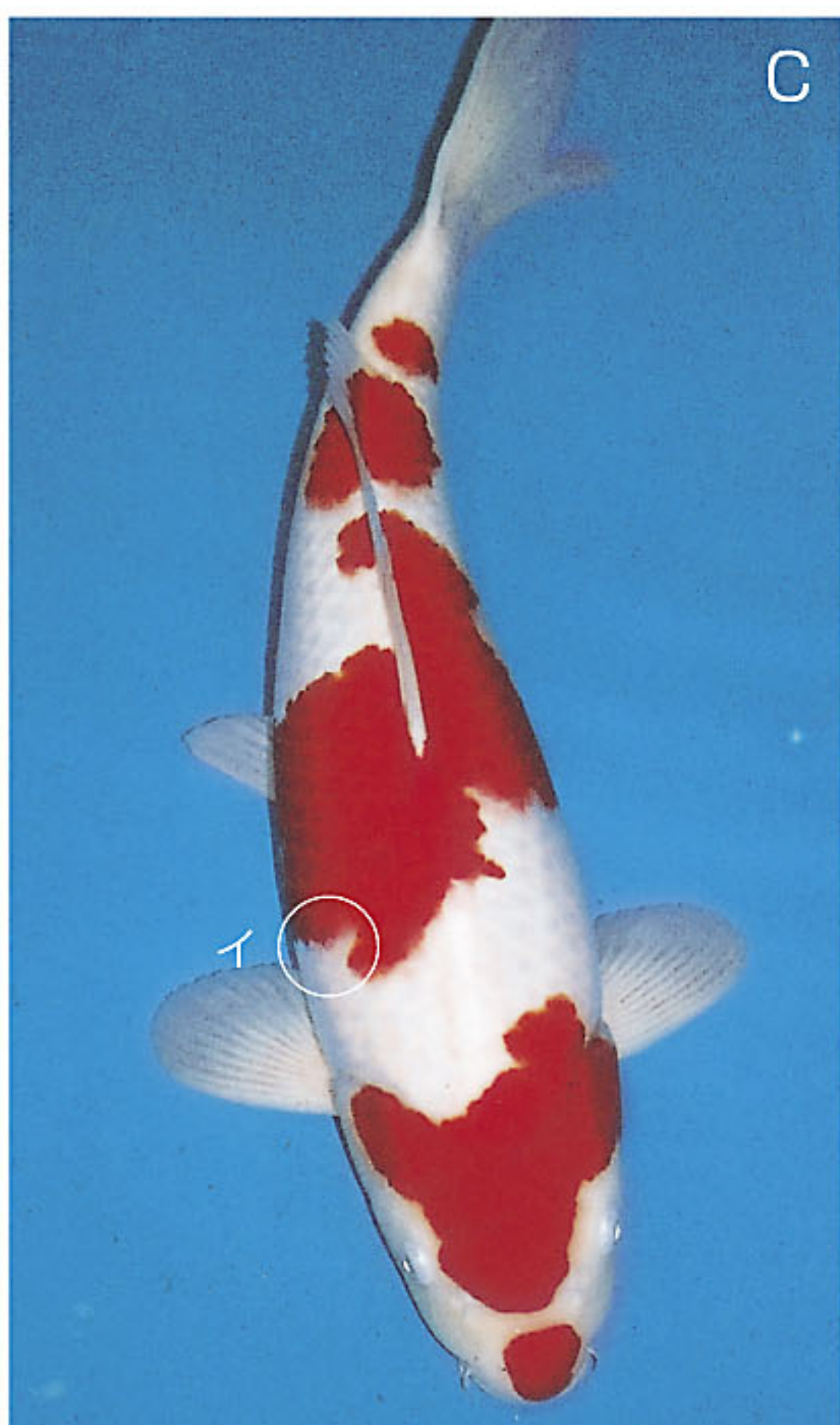
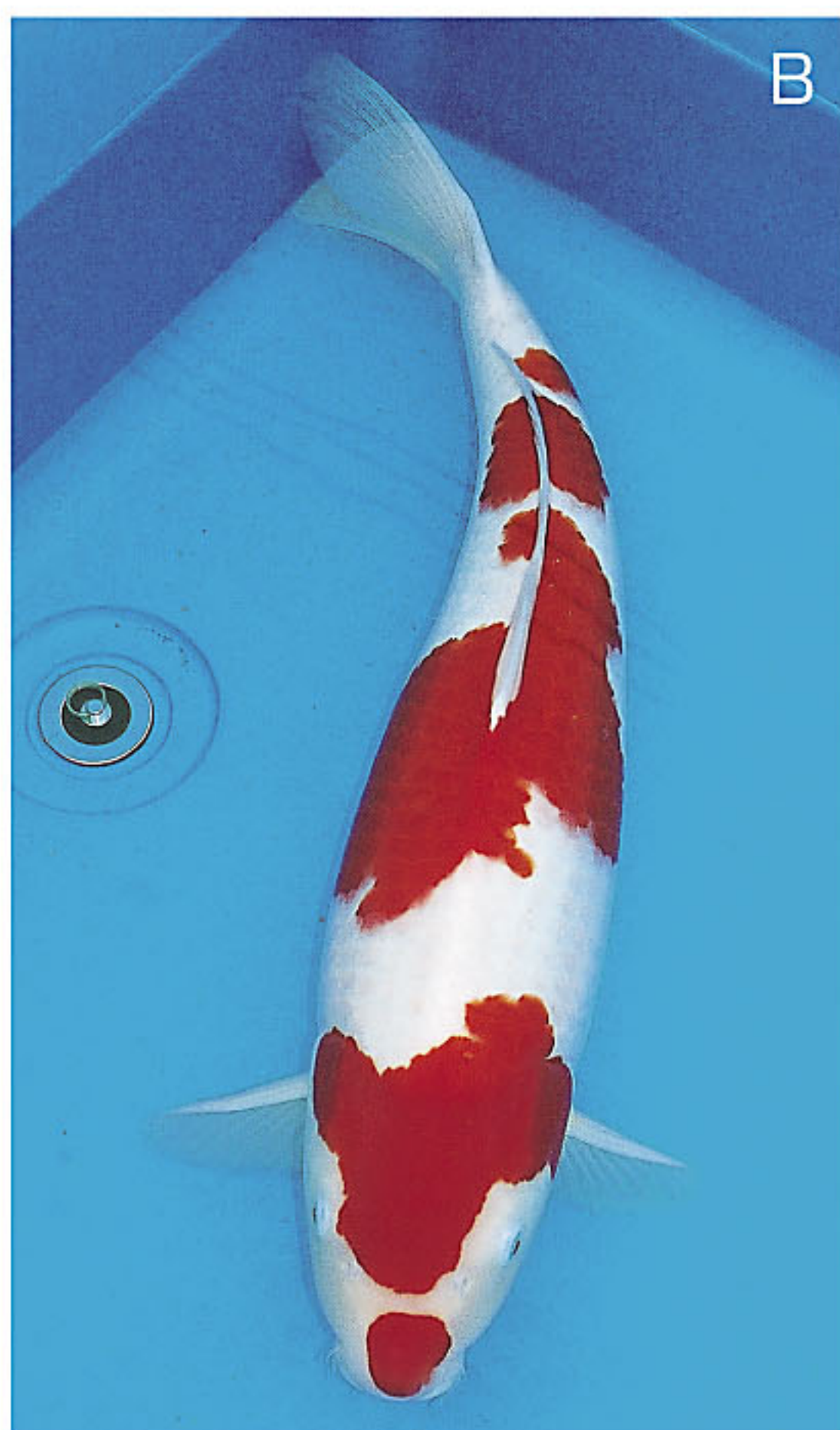
これをもう1年立てて、4才にしたときの姿がこれです(⑭—C)。切れ込みのところの小さな白地(⑭—C・イ)も一つの模様になってきましたし、サシも解消し、ボリュームも付いて迫力のある鯉になりました。

次も瀧川産の2才です(⑮—A)。これは桃太郎系の親を交配して作った鯉です。紅が独特で、またサシがいわゆる「カミソリザシ」で、特徴的な鯉でした。

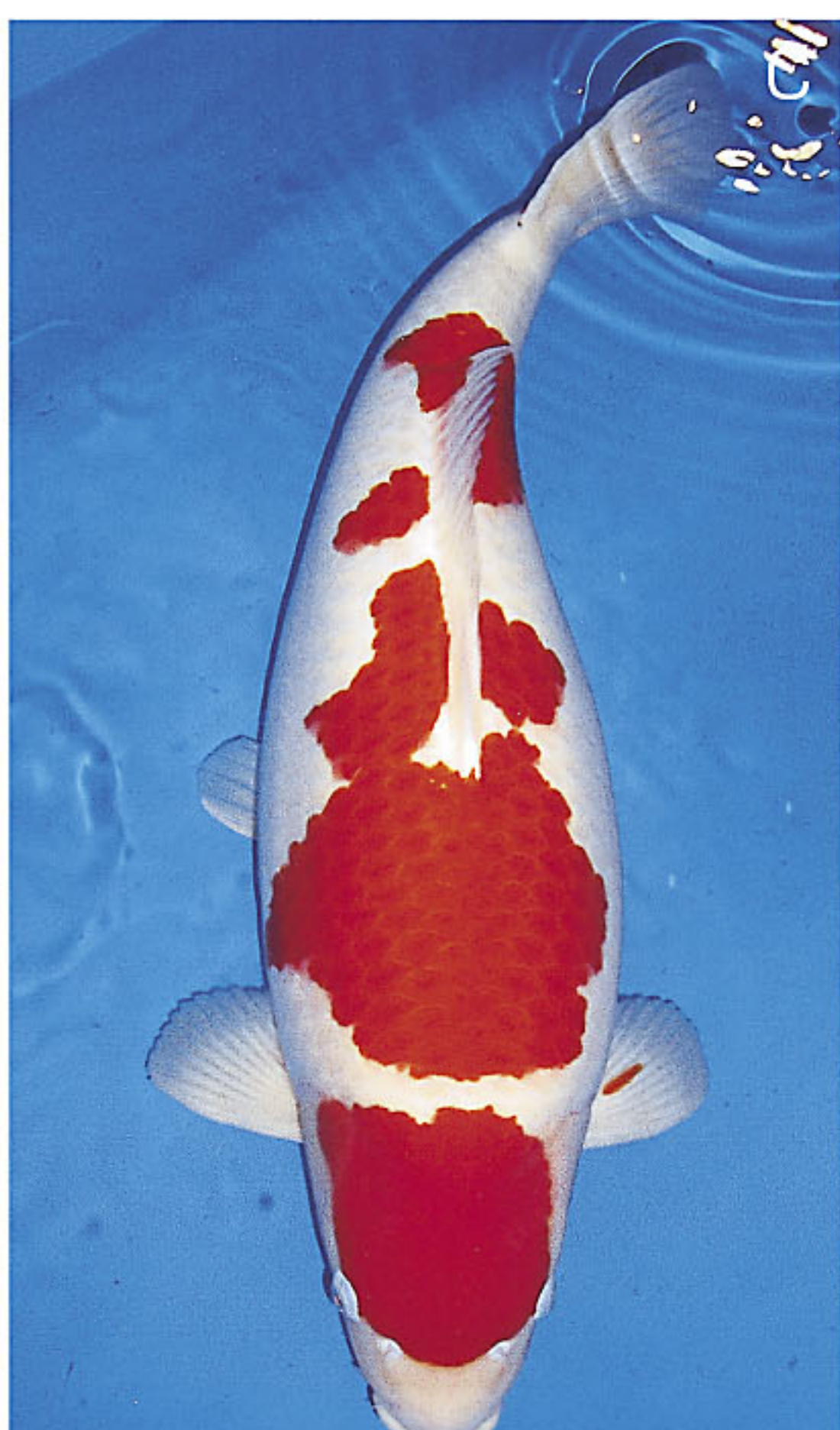
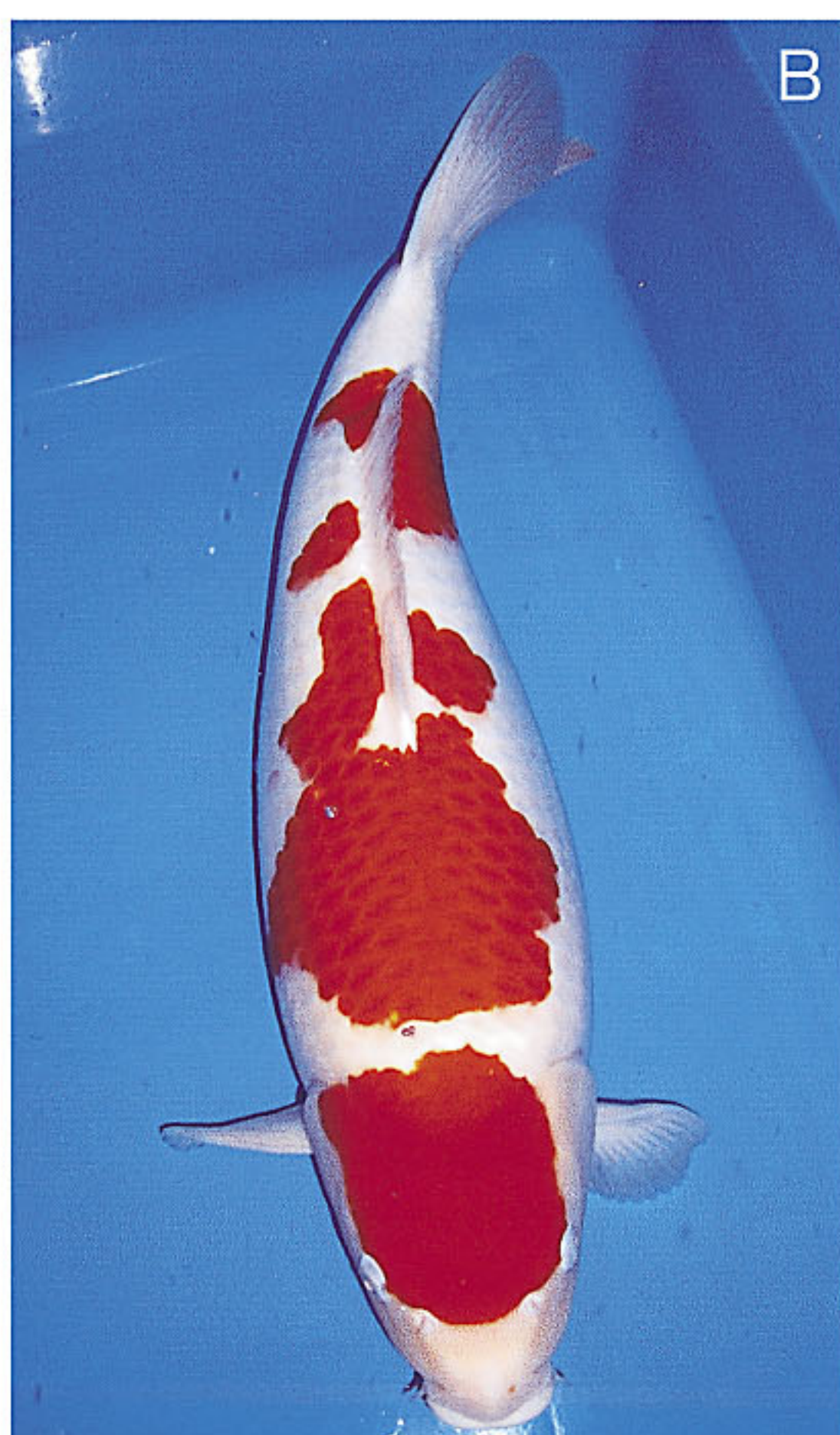
これを1年立てるとこうなりました(⑮—B)。カミソリザシはそのまま生きて、ドイツ鯉のようなキワをした鯉になりました。そしてさらに1年立て4才になると(⑮—C)、ボリュームが増し見栄えが良くなり、紅も厚みを増してきました。また、丸染め部分のキワがより一層シャープになりました。



⑭／瀧川紅白



⑮／瀧川紅白



これは⑮の兄弟で2才です(⑮—A)。三段模様で万人受けする、教科書通りのガラをしている鯉ですね。全般的に少し細身ですので、「ポリウムがあつたらな」と思われる方もいるかもしれませんが、こういうのは後から肉が入ってきます。

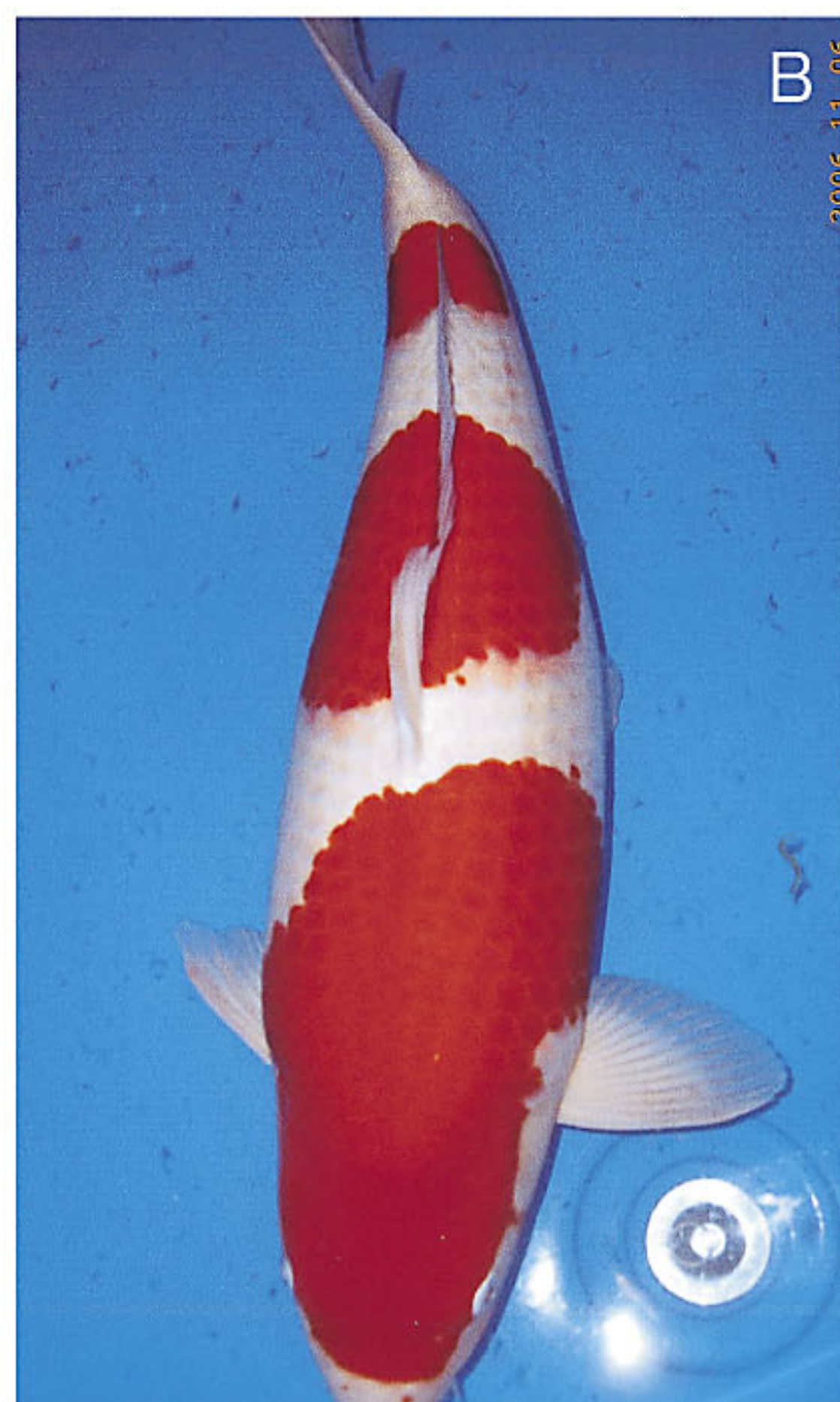
1年後の姿がこれです(⑮—B)。ポリウムが付きましたね。2才の時はサシが毛布を引きちぎったような感じで、あまり綺麗ではなかったんですが、十分に締まってきて紅もさらに揚がって、貫禄が出てきました。

次の鯉も兄弟で、少し細身で紅に厚みがない状態でした(⑮—A)。先ほどと同じで、切れ込みが生きてくるのではないかと求めてきた鯉です。

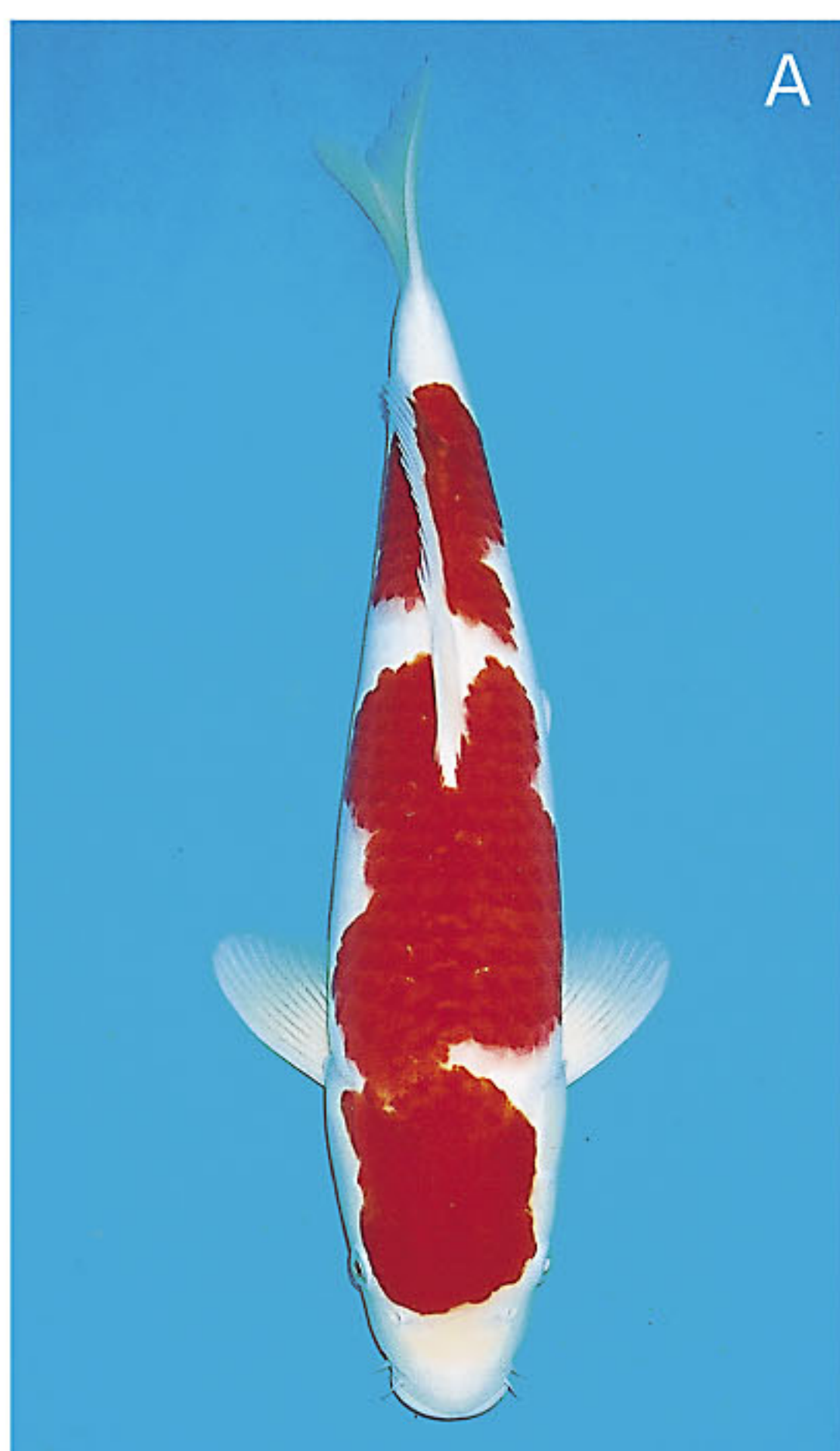
1年経ってこうなると、切れ込みが生きてきて一つのガラになりました(⑮—B)。また、紅のテリも増してきたので、魅力的な鯉になりました。

次はまた親が違い、ジャンボ賞を取った鯉の姉妹鯉と、飯塚仙助の『玉鱗』の子供を掛けて採った鯉で

①⑥／瀧川紅白



①⑦／瀧川紅白



す。これが2才の姿です(①⑧—A)。立て鯉の見方としてあまり言いたくないのですが(笑)、各パーツを見てください。口の作り、目幅、背鰭の波立てから口先までの距離、肉の入り方……そしてサシがあることです。サシのない鯉は崩れることが多いですから、立て鯉としてはそのへんを見ていただくと、3才でこう

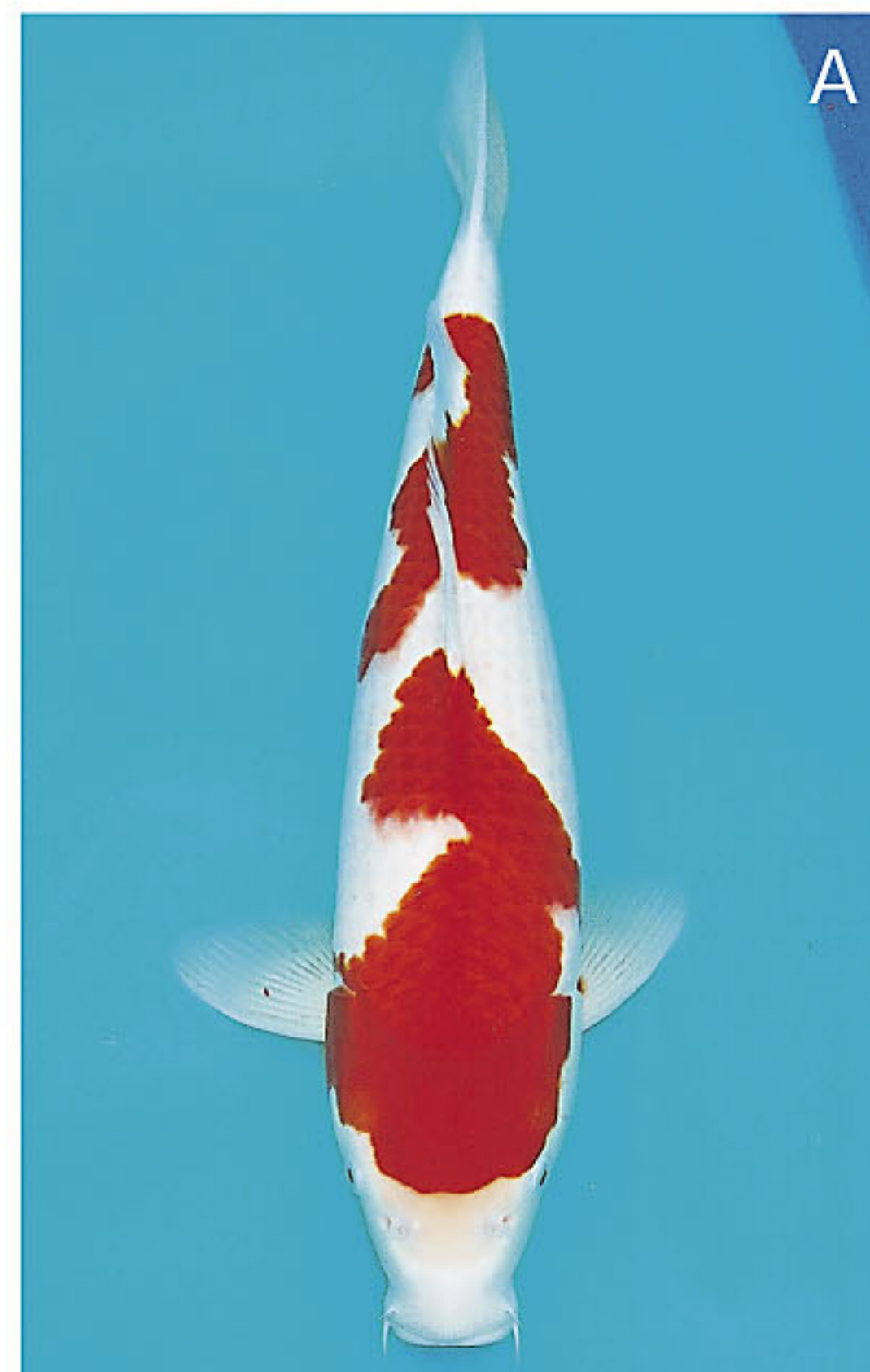
なつて揚がってきます(①⑧—B)。サシが解決されてきて、ボリュームも付いて良い状態になってきましたね。そして4才ではこのようになりました(①⑧—C)。紅が揚がり、テリのある紅白になりました。切れ込みも、大きくなればなるほど味が出てきます。また、顔幅も付いてきました。

松江紅白の変化を追う

次は島根の松江錦鯉センター産の紅白で、2才です(①⑨—A)。これは松江産でも珍しい、血液のような黒真つ赤な紅をした鯉でした。こういう鯉は緋が持たないとよく言われるんですが、サシがしっかりしていたので大きくなっても崩れないんじゃないかと思って仕入れてきました。

3才になると見事にサシも綺麗に解決し、ボリュームも増し、紅はその質を維持して大人の鯉になりました(①⑨—B)。

次は『すずらん』の子供です。これは先ほどの出雲ライオンと同じく森田仙助系の鯉だと思います。2才



⑱／瀧川紅白



⑲／松江紅白



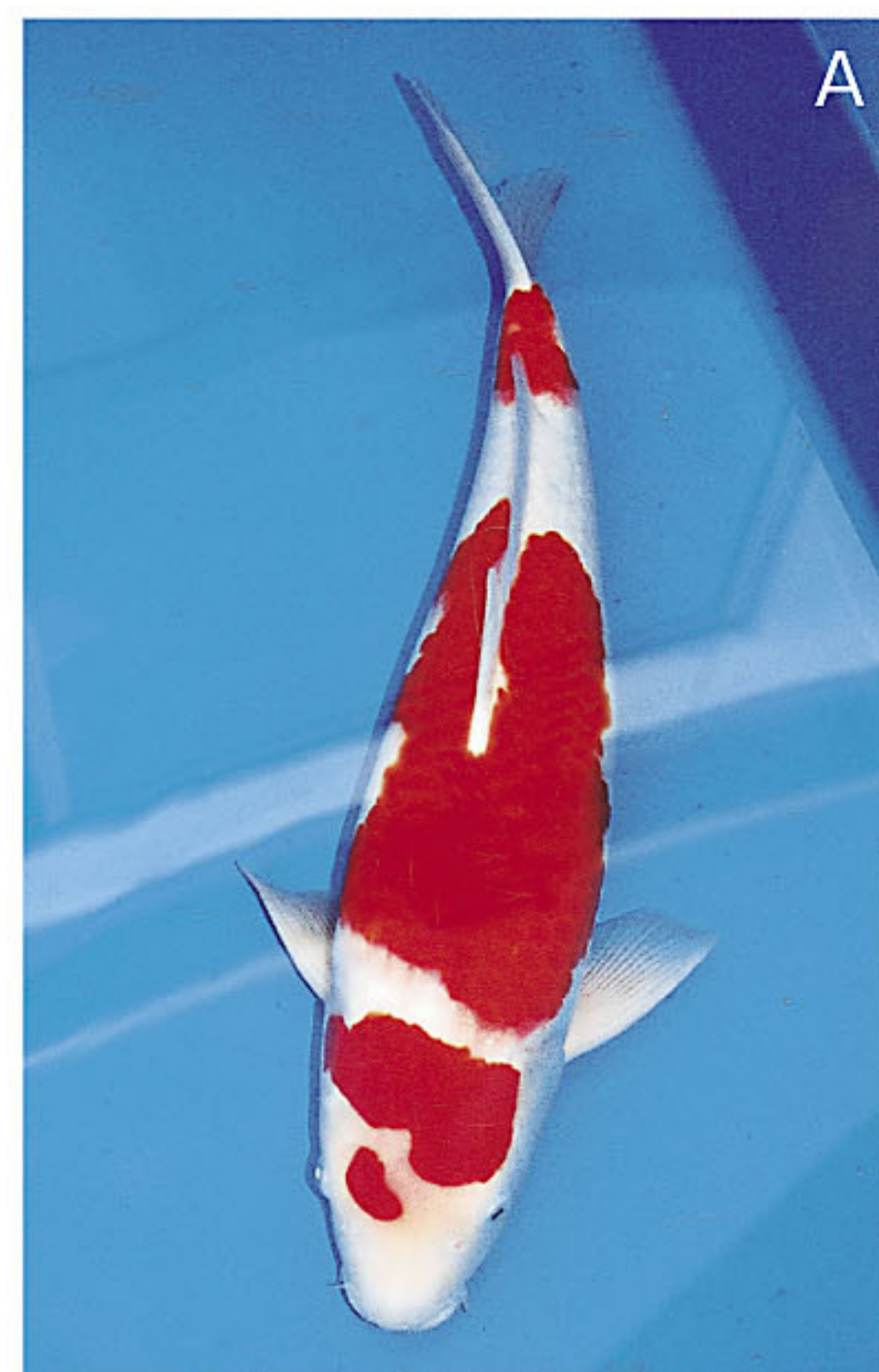
時の姿です(⑳—A)。50 cmぐらいで、まだそれほど特徴的なものは出ていませんが、各パーツを見ると、仙助らしさを随所に見ることができると思います。目幅や口の作り、カミソリザシなどがそうですね。

これを立てるとどうなるかというと、こうなりました(㉑—B)。3才の写真を残していないので、これは4才です。頬に肉が入り、お多福顔になってきました。そして前ザシがだいぶ解決されてきましたね。

これをもう2年立てて、6才ではこうなりました(㉑—C)。紅も厚みを増して、顔の形も体の幅と同じくらいに膨らみが出てきて、大人っぽい鯉になりました。

今度は『玉鱗』の子供です。玉鱗も仙助系の古いタイプの鯉です。

これは2才ですが、かなり洗練された鯉でした(㉑—A)。サシもカミソリであり、またリズムのある感じで、こういう鯉は崩れると汚くなる可能性があるのです、愛好家の方は嫌うタイプかもしれません。サシが多すぎるということ……。でもそれぞれがしっかりとっているので、私自身はそれほど気にせず買ってみま



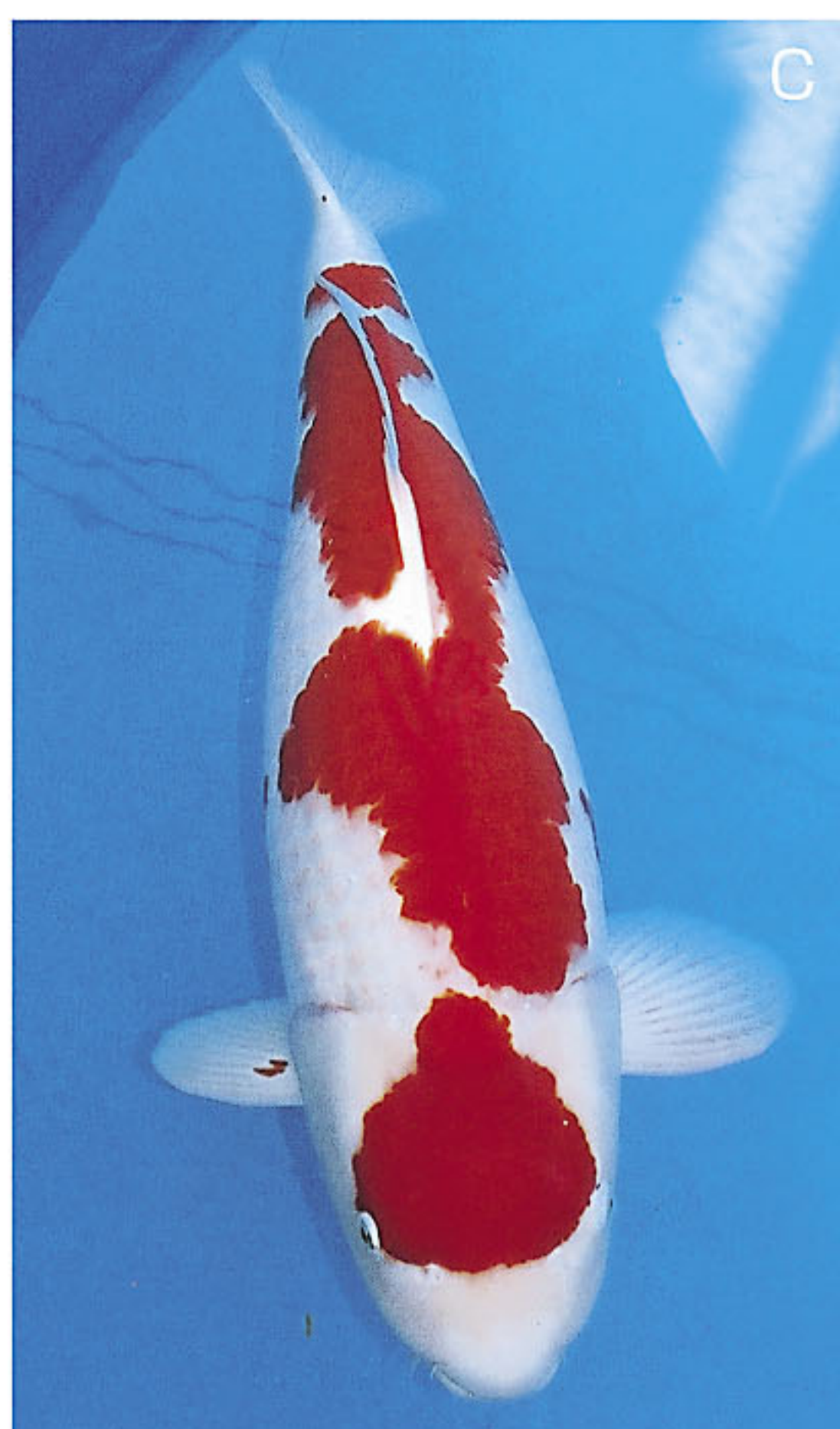
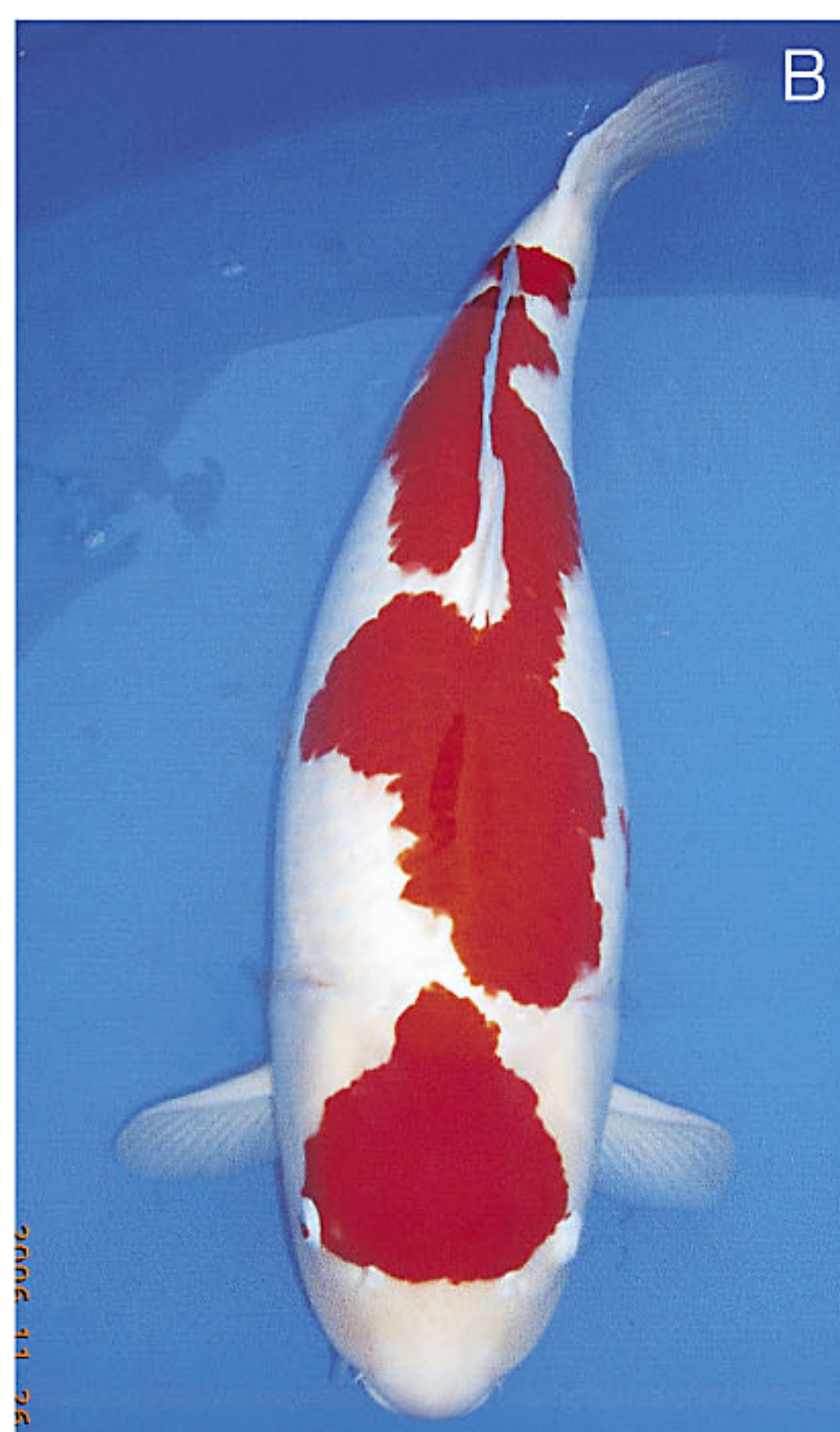
②①／松江紅白



②①／松江紅白



②①／松江紅白



した。

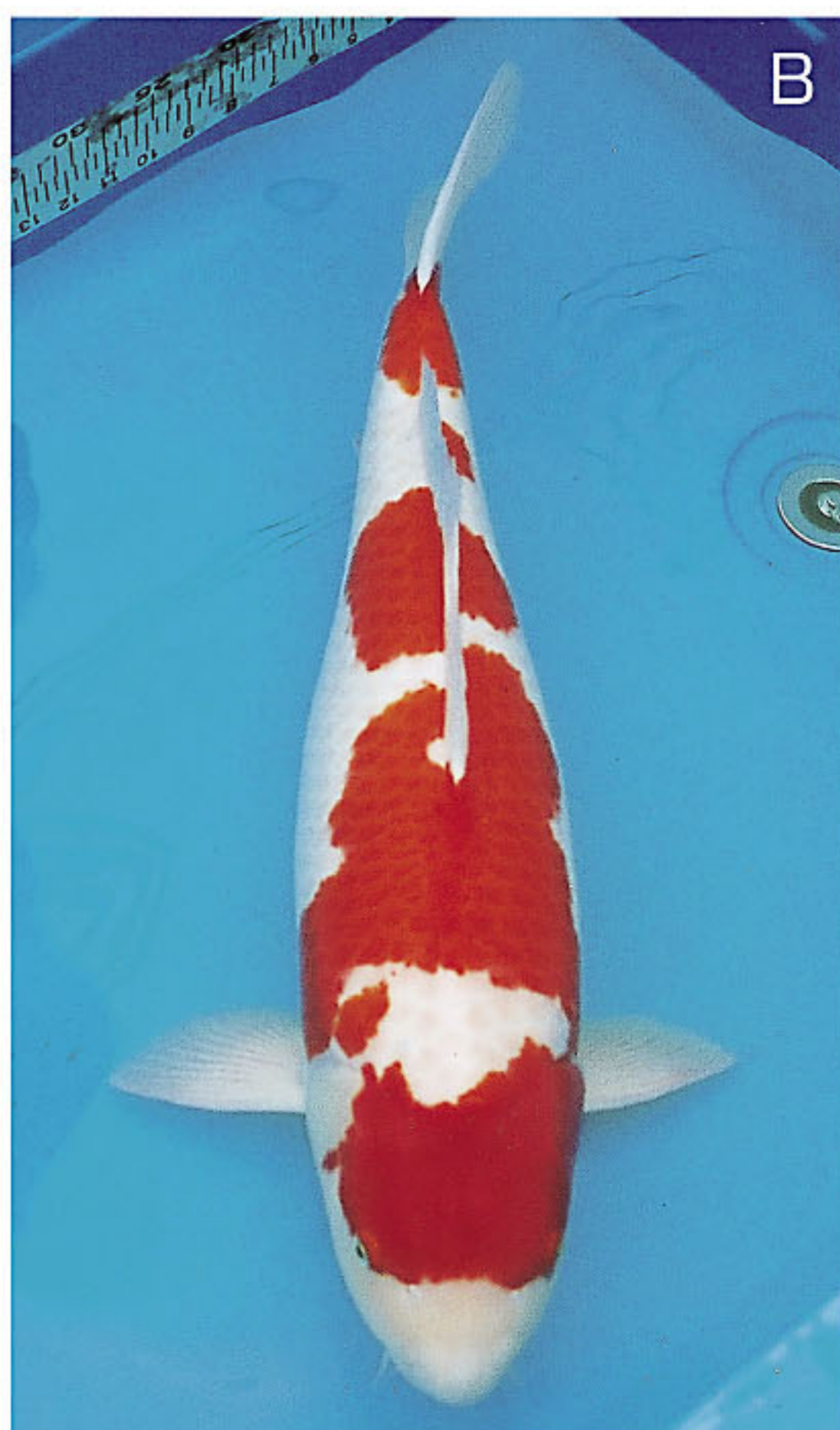
次は4才の写真です(②①—B)。サシがノコギリで切ったように締まってきましたね。紅も厚くなり、お多福顔になりました。これは野池で獣に尾をかじられてしまつて少し痛んでいたんですが、もう1年立てたら治って綺麗になりました(②①—C)。紅も仙助らしくねっとりとして、いい鯉になりました。

松江産の最後は、玉鱗の元親を作ったと言われる『森田仙助』の子供の変化です。これは3才です(②②—A)。昔ながらの森田仙助らしい紅が特徴的です。出雲ライオンと同じような質感の鯉です。これを1年立てるとこうなりました(②②—B)。やはり頬に肉が入ってきて、仙助の特徴であるカミソリザシがしっかりとできてきました。

そしてさらに1年立てました(②②—C)。ますます顔に特徴が出てきたのと、サシが見えない状態になってきましたね。紅も仙助らしい厚みのあるオレンジ紅になり、出雲ライオンもそうでしたが、覆鱗が出てきました。



②②／松江紅白



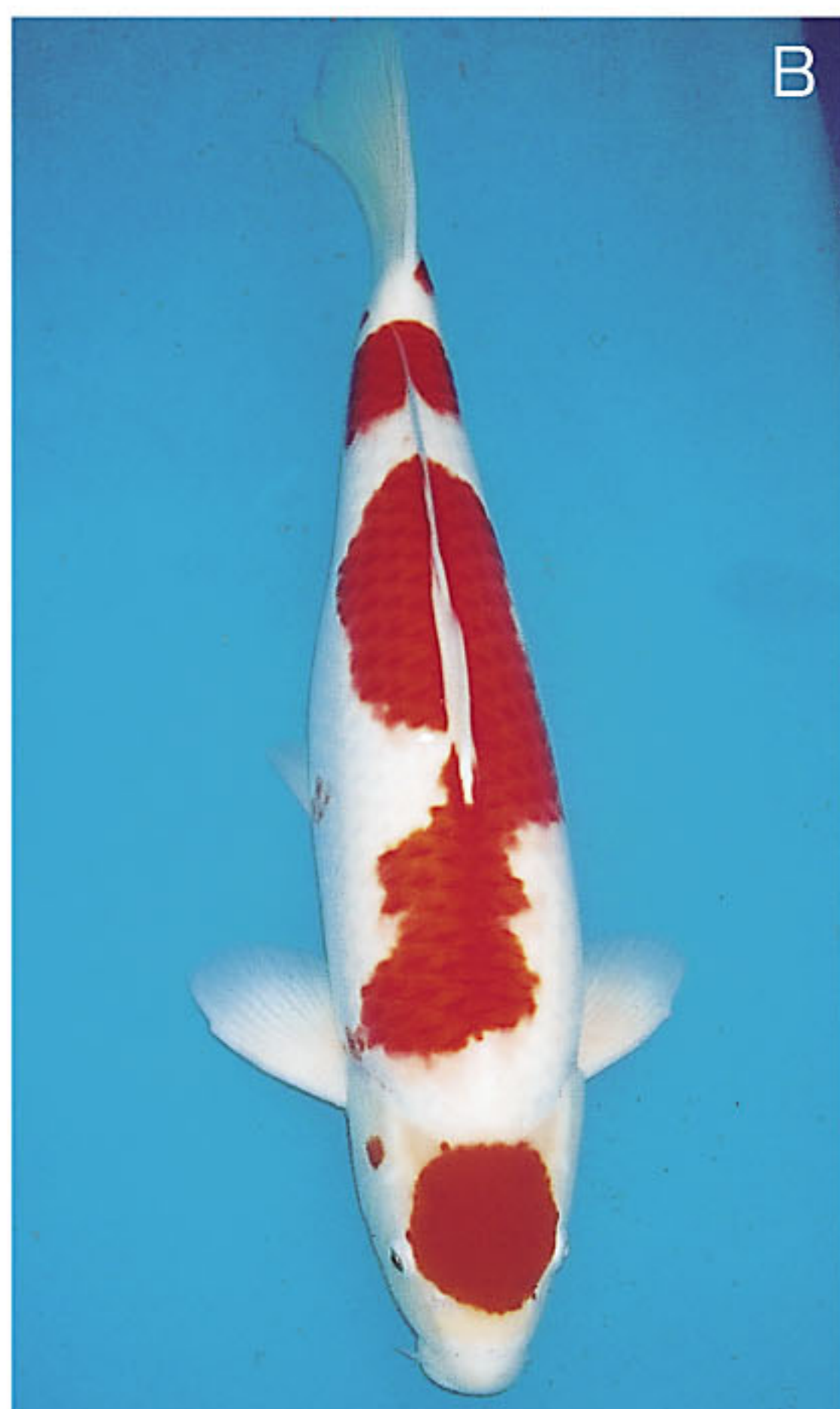
②③／洋平紅白



洋平紅白の変化を追う

次は、愛知県の鯉の洋平産のハイブリッド鯉の変化の過程を見ていきます。これは万蔵系の当才です(②③—A)。ちよつと緋がパラパラしているので、飛ぶんじゃないかと嫌う人もいるかもしれませんが。しかし、各パーツがしっかりしているので、面白いなと思って仕入れた鯉です。

これを1年立てるとすっかり模様が3枚あればガラになる」と昔の人



②④／洋平紅白



②⑤／洋平紅白

はよく言っただんですが、その通りになりました。サシも綺麗に締まり肌も抜けて、ボリュームも増してきました。そしてこれをもう1年立てるとさらに紅が厚みを増して、特徴的な紅白になってきました(②③—C)。万蔵らしい紅味になってきましたね。

これも洋平産のハイブリッド紅白です(②④—A)。非常に深いサシで、毛布を引きちぎったようにボヤッとしていたんですが、この形質なら締まるんじゃないかと思って1年立ててみるとこうなりました(②④—B)。しっかりと締まってきましたね。白地が抜けて紅も揚がり、尾筒に肉が入り体型も良くなりました。

今度はどちらかと言うとピンク紅の当才です(②⑤—A)。これもキワとサシが深いですね。「大丈夫かな」と思われるかもしれませんが、立てるとこうなります(②⑤—B)。紅はそのままに綺麗にサシが締まってきたので、白地が生きてきました。

そしてこれが現在の姿です。(②⑤—C)。かなりボリュームが付き、堂々としてきました。

(つづく)